TO－３３５ NC

取　扱　説　明　書

ベ ス ト ス リ ン グ
（横 吊 り 式 ハ ー ネ ス）
（P/N　AZ1030－1）

2005年３月９日

藤　倉　航　装　株　式　会　社
東京都品川区荏原２丁目４番４６号
ＴＥＬ　03－3785－2108

目　　次

序　文　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

１．概　説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　　１．１　概　要　・・・・・・・・・・・・・・・２
　　１．２　性能・諸元　・・・・・・・・・・・・２
　　１．３　構造及び各部の名称　・・・・・・・２

２．使用方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
　　２．１　スリングの吊下げ，降下方法　・・４
　　２．２　スリングの装着方法　・・・・・・４

３．保管・整備・点検　・・・・・・・・・・・・・・７
　　３．１　保　管　・・・・・・・・・・・・・・・７
　　３．２　整　備　・・・・・・・・・・・・・・・７
　　３．３　点　検　・・・・・・・・・・・・・・・８

序　文

この度は，ベストスリング（横吊り式ハーネス）をお買い上げいただき，誠にありがとうございます。ご使用の前にこの取扱説明書をすべて熟読し，装具の知識，注意事項のすべてについて習熟してからご使用下さい。

なお，ご不明な点は，弊社営業部宛てお問合せ下さい。また，いつでも読めるように大切に保管してください。

本書に書かれた注意事項は，使用者への危害を未然に防ぐためのものです。安全にお使いいただくために非常に重要な内容ですから，必ずお守り下さい。

記載内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し説明しています。

⚠ **危険**：取扱いを誤った場合に使用者が死亡，または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。
⚠ **警告**：取扱いを誤った場合に使用者が死亡，または重傷を負う可能性が想定される場合。
⚠ **注意**：取扱いを誤った場合に使用者が傷害を負う危険性が想定される場合及び物的損害のみの発生が予想される場合。

１．概　説

１．１　概　要

・ベストスリング（横吊り式ハーネス）（以下，「スリング」と呼ぶ）は，ヘリコプターのホイストケーブルの端末に吊るし，遭難者を引揚救助するベストタイプの救助装具です。

・スリングは，アームホールに腕を通し，ベストを着るような方法で装着でき，首部からひざ部までの広い範囲を支えることができるため，引揚げ時の遭難者への負担を最小限に抑えることができます。

１．２　性能・諸元

・スリングは３ヶ所のサイズ調整機構によって広い範囲の体格の遭難者に適応できます。その他の諸元は次の通りです。

諸　　元

製品の全長（最大時）　：　約 1.7 m

製品の質量　：　約 2.0 kg

保証荷重　　：　2650 N

１．３　構造及び各部の名称

スリングの構造（写真-1，2）は，ひし形状のポリエステル布に中央，頭部，腰部，脚部の各吊下ベルトが縫い付けられており，これらのベルトが吊下荷重を分散して支えています。ポリエステル布及び各吊下ベルトが遭難者の首部からひざ部までの広い範囲を包みこむため，引き揚げ時，遭難者に安心感を与えることができ，また，遭難者への負担を最小限に抑えることができます。腰部吊下ベルトの両端にはD型環，また中央吊下ベルトの足側にはカラビナが取り付けられています。カラビナを遭難者の股の間を通して，あらかじめふたつのＤ型環にかけておき，Ｄ型環をホイストケーブルのフック等にかけます。カラビナはＤ型環にかける代わりにホイストケーブルのフックに直接かけても構いません。中央吊下ベルトには，サイズ調整環が３ヶ所に取り付けられており，遭難者の体格に合わせてスリングの縦サイズを調整することができます。

スリングの外側には，両側面に２ヶ所ずつ，中央部に１ヶ所の計５ヶ所にハンドルが取り付けられており，遭難者を機内へ収容する際にスリングをつかみ易くします。

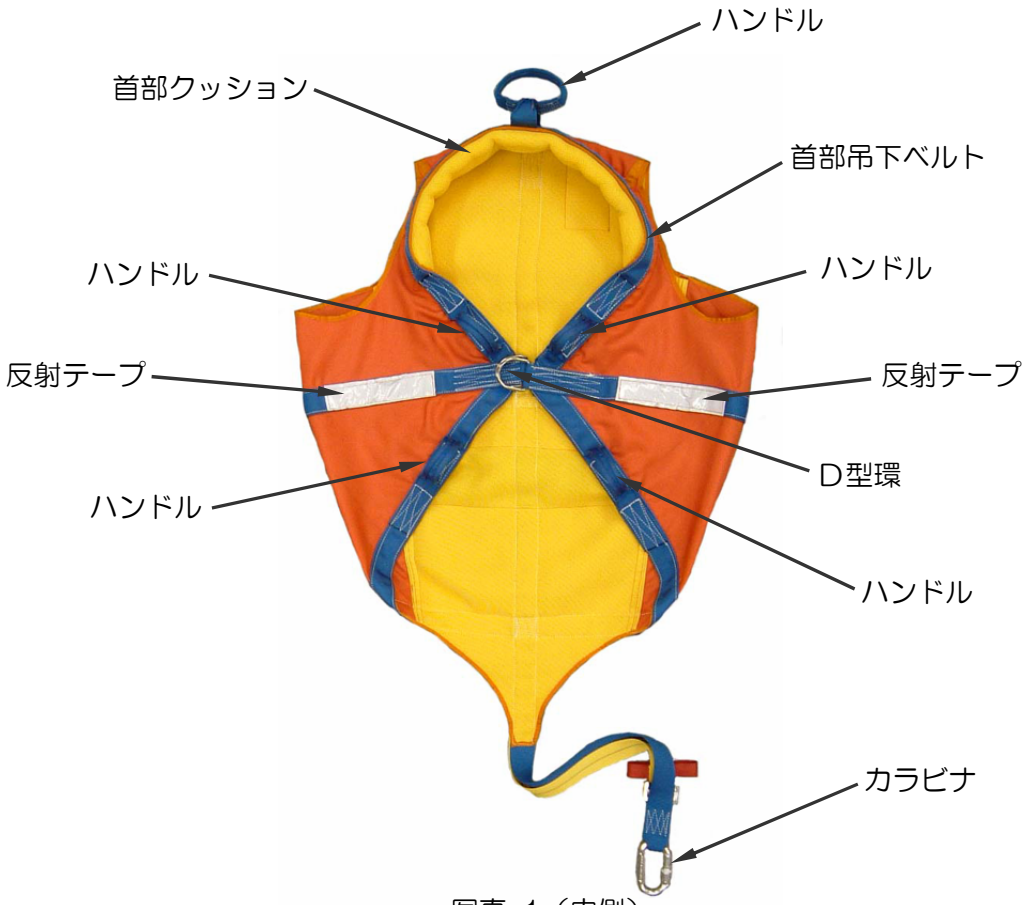
ハンドル
首部クッション
首部吊下ベルト
ハンドル
ハンドル
反射テープ
反射テープ
D型環
ハンドル
ハンドル
カラビナ

写真-1（内側）

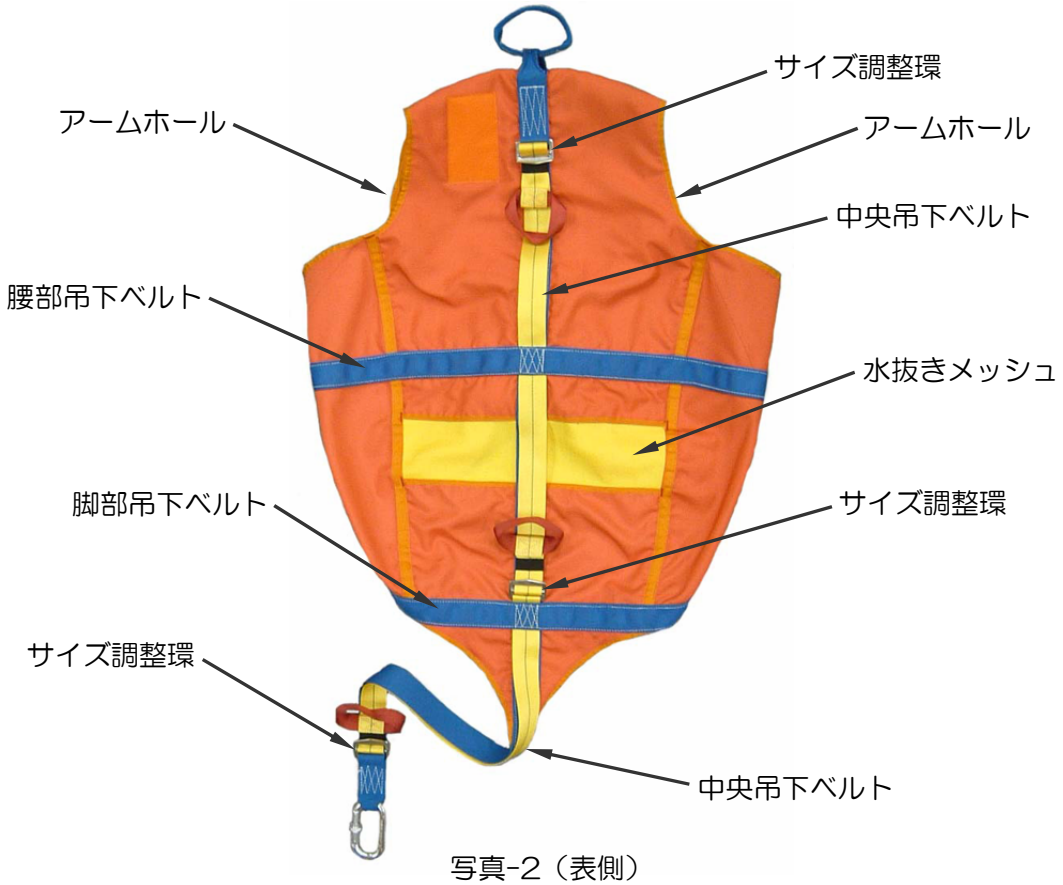
サイズ調整環
アームホール
アームホール
中央吊下ベルト
腰部吊下ベルト
水抜きメッシュ
脚部吊下ベルト
サイズ調整環
サイズ調整環
中央吊下ベルト

写真-2（表側）

２．使用方法

２．１　スリングの吊下げ，降下方法

スリングを小さく折りたたみ，救助者と一緒に遭難者の所へ持っていきます。

２．２　スリングの装着方法

> **⚠警告**
>
> **救助者がスリングを持って降下し，遭難者のスリング装着を補助して下さい。**
>
> 装着方法を誤ると，引き揚げ時，スリングの中でバランスを崩し，遭難者がスリングから抜け落ちる恐れがあります。

遭難者が立っている場合，寝ている場合のどちらでもスリングを装着することができます。

２．２．１　遭難者が立っている場合

（1）スリングを広げ，黄色のメッシュ面を内側（遭難者の身体側）にし，ベストを着るようにアームホールに腕を通します。

（2）遭難者の体格に合わせてサイズ調整環を調整します。腰部吊下ベルトが遭難者の腰部に位置するように中央吊下ベルトの長さを調整して下さい。

（3）左右両端のＤ型環を遭難者の胸前方でひとつに合わせ，股の間から中央吊下ベルトを引き出し，先端のカラビナをふたつのＤ型環にかけます。（写真-3）

カラビナにはロック機構が付いています。カラビナをＤ型環にかけた後は，必ずロックさせて下さい。

（4）ヘリコプターから吊り下げられたホイストケーブルのフック等にふたつのＤ型環を確実にかけた後，ホイストケーブルを巻き上げ，遭難者を引き揚げます。（写真-4）

（5）遭難者の足が地面から離れ，遭難者がスリングで吊り下げられた姿勢を確認します。

写真-3

写真-4

２．２．２　遭難者が寝ている場合

（1）あらかじめ遭難者の体格に合わせてサイズ調整環を用いてスリングの大きさを調整します。

（2）寝ている遭難者の背中を浮かせて，その下にスリングをすべり込ませる，あるいはあらかじめスリングを地上に広げておき，その上に遭難者を移動させて，スリングの上に遭難者を寝かせます。

（3）遭難者の腕をアームホールに通します。

（4）ここから，遭難者が立っている場合と同様に，左右両端のＤ型環を遭難者の胸前方でひとつに合わせ，股の間から中央吊下ベルトを引き出し，先端のカラビナをふたつのD型環にかけます。（写真-5）

　カラビナにはロック機構が付いています。カラビナをD型環にかけた後は，必ずロックさせて下さい。

（5）ヘリコプターから吊り下げられたホイストケーブルのフック等にふたつのD型環を確実にかけた後，ホイストケーブルを巻き上げ，遭難者を引き揚げます。（写真-6）

写真-5

写真-6

（6）遭難者の体が地面から離れ，遭難者がスリングで吊り下げられた姿勢を確認します。

⚠ 警告

尻部が胴体中最低の位置となり，胸が腰より高くなるように3ヵ所のサイズ調整環にてスリングのサイズを調整して下さい。

吊り下げ姿勢に異状がある場合は，スリングのサイズを再度調整して下さい。（写真－7，8）

吊り下げ姿勢に異状があるまま引き揚げると，遭難者がスリングの中で不安定となり，遭難者がスリングから抜け落ちる恐れがあります。

写真-7

写真-8

引き揚げられているときの姿勢を写真-9 に示しました。
尻部が胴体中最低の位置となり，胸が腰より高くなっています。

【 良 い 例 】

３．保管・整備・点検

３．１　保　管

３．１．１　一　般

この製品は，主要部のスリング本体と吊下ベルトが繊維でつくられているため，高温多湿の状態におかれると劣化しやすいため，保管は次の要領で行なって下さい。

３．１．２　保管要領

（1）土，ほこり，油，酸，及びアルカリ等から保護して下さい。
（2）直射日光を避けて下さい。
（3）換気の良い乾燥した場所に保管して下さい。
（4）床より高い台，または棚の上に置いて下さい。
（5）土，コンクリートの床に直接触れさせないで下さい。
（6）熱湯管，ラジエーター，その他の暖房装置のそばなどの高温の場所に置かないで下さい。
（7）水に濡れたままの放置や，雨漏りのする場所，蒸気の当たる場所に置かないで下さい。
（8）スリングの上にものを載せないで下さい。

> **⚠注意**
> **保管場所は，高温多湿のところは避けて下さい。**
> 劣化の原因となります。

３．２　整　備

使用したスリングは，次の要領に従って整備を行なって下さい。

（1）スリングに以下のア～エのような損傷等がないことを確認して下さい。
　ア．ベルト，ハンドル，生地の摩耗，切り傷，サケ傷。
　イ．縫製部のホツレ，糸切れ。
　ウ．繊維材料の著しい退色。
　エ．Ｄ型環，カラビナ，サイズ調整環の亀裂，変形，作動不良。
（2）よごれが付着した場合は，中性洗剤でよごれをふき取り，清水を浸した布で洗剤を取り去り，風通しの良い日陰で十分に乾燥させて下さい。
（3）水中で使用した場合は，清水にて水洗いし，風通しの良い日陰で十分に乾燥させて下さい。特に海水中で使用した場合は，清水にて十分に塩抜きして下さい。

> **⚠注意**
> **洗浄の際，シンナー等の溶剤は使用しないで下さい。**
> **直射日光に当てたり，電熱器，熱風等で乾燥させないで下さい。**
> **また，洗浄時は，ブラシ等で強くこすらないで下さい。**
> 劣化の原因となります。

３．３ 点 検

３．３．１ 一 般

点検は，使用前後，あるいは使用の如何にかかわらず年に２回（６ヶ月毎）実施して下さい。点検は，次の要領で外観上の欠陥の有無を主として目視によって行なってください。

⚠注意

年に2回の（6ヶ月毎）の点検を必ず実施して下さい。

３．３．２ 点検要領

（1）酸，アルカリ，または油等による汚れ，シミ，変色。
（2）繊維材料の日光による著しい退色。
（3）縫製部のホツレ，糸切れ。
（4）生地のスレ傷，切り傷。
（5）ベルト，ハンドルの摩耗，切り傷，サケ傷。
（6）金物部品の亀裂，変形，及び作動不良。

⚠危険

上記の（1）～（6）の異状を発見したときは，使用をやめ，直ちに製造元へ連絡の上，必ず点検修理を受けて下さい。
外観上の欠陥により重大な危険を招く恐れがあります。

スリングの使用限度は，使用年数で決められるものではなく，その状態によって決められます。

年に２回（６ヶ月毎）の点検を必ず実施し，異状を発見したときは，製造元の点検を受け，製造元の指示に従って下さい。

≪連絡先≫

この製品につき，不明な点，整備点検のご依頼等がございましたら，下記にご連絡下さい。

藤倉航装株式会社

住所 ： 〒142-0063
東京都品川区荏原2丁目4番46号
TEL ： 03－3785－2108（営業直通）
FAX ： 03－3784－0416